

平成30年度 大学院人間文化創成科学研究科（博士後期課程）

比較社会文化学専攻

（国際日本学領域・言語文化論領域・比較社会論領域・表象芸術論領域）

3月入試

言語試験（英語）

試験日： 平成30年3月5日（月）

試験時間： 10時30分～11時50分

【注意事項】

1. 解答はすべて答案用紙に記入すること。
2. 答案用紙は問題番号①・②のそれぞれに用意されています。用紙を間違えずに解答を記入すること。

お茶の水女子大学

- 1 次の英文を読み、下線部 (1)、(2) を和訳しなさい。(\*を付した語には、注があります。)

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承ください。

(Adapted from Erin Meyer, *The Culture Map*, 2015)

<注>buttonhole\*:引き止めて長話をする

- 2 次の英文を読み、下線部(1)、(2)を和訳しなさい。(\*を付した語には、注があります。)

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から掲載することが  
できませんので、ご了承願います。

(Adapted from Michael Puett and Christine Gross-Loh, *The Path:  
A New Way to Think About Everything*, 2017)

<注> Zhuangzi\* : 莊子

2018年度（平成30年度）

お茶の水女子大学大学院  
人間文化創成科学研究科  
博士後期課程

比較社会文化学専攻  
3月入試

## 言語試験（日本語）

### 問題用紙

（この問題用紙は、試験終了後持ち帰っても構いません）

解答は全て答案用紙（別添）に記入すること

全4ページ（表紙を含む）

1 次の文を読んで、後の問に答えなさい。解答は答案用紙に記入しなさい。

人は誰でも自分の行為は否定したくないものだ。しかし失敗を認めてその経験を反省し、軌道修正していくことも大切だ。人生を重ねていくということは、失敗を重ねていくことでもあり、そういった意味で経験豊富な人の失敗談は大変に参考になるところが多い。人間は先まですべて見通せるほど賢くはないので、どんな人でも必ず失敗する。そして失敗事例から学習することで次に失敗しないように工夫をする。失敗を分析してその法則性を探り、失敗を未然に防ぐ目的で、畑村洋太郎・東京大学名誉教授が提唱した「失敗学」というものがある。そこでは様々な失敗の事例を分析して、その原因を10に分類できるとした。

まず、⑥失敗の原因が誰にも未知の現象だったときで、この場合、プラスの意味で考えれば失敗がさらなる飛躍へつながらる可能性があり、まさに、失敗は成功の母といえるだろう。次に本人の未熟さから来る、無知、不注意、手順の不順守の三つがある。これらは不勉強や注意散漫、規則無視などが原因のものだ。続いて、誤判断、調査・検討の不足の二つで、これは高度な判断ミスといえるが、状況を正しく捉えず、よく検討しなかったことに起因する。この改善のためには、様々な状況を考え、仮想的なシミュレーションを行ったり、様々な情報を集める努力が必要で、さらに失敗したときの対応策も検討しておく必要がある。

次に回避が難しい失敗原因として、時間とともに環境が変化する、という制約条件の変化がある。環境は常に変化するため、その予測は大変難しい。最後に企画不良、価値観不良、組織運営不良という、「不良」がついている三つの原因があげられている。これらはトップダウンの組織で起こることが多いもので、順に説明すると、企画そのものに問題があったという場合、組織内の価値観が外部の今の常識とずれていた場合、そしてリーダーの決断力の欠如、というものだ。

以上は大変示唆に富んだ分類で、人間はどういうときにミスをするのかを考える際に大変参考になる。もちろん失敗は少ないほうがよいのだが、はじめに挙げた未知の原因で起こる失敗は自らの経験値を上げてくれるため、長い目で見れば好ましいものだ。また、物事を十分に検討したり、結果を予測するには最大限に頭を使う必要があり、これこそ頭の圧力を上げるときなのだ。大胆かつ細心に、という言葉があるが、失敗を恐れてはいけない。失敗から学べばよく、それによって直観を磨くことができる。こうしているような困難に対してもあきらめない思考の体力を身につけ、柔軟な連想で問題解決にあたる。そしてこの連想を助けてくれるものが無駄という概念だ。〈中略〉

無駄という言葉をきちんと定義するのは難しい。⑥一見無駄なものに見えても、いつか役にたつこともあるからだ。例えば私は高校生のとき、大学入試にない科目をたくさん勉強させられて、無駄だ、と思っていたが、ずっと後になってその知識が身を助けることがたくさんあった。

また、無駄と似たような意味で使われる言葉として、「損」あるいは「もったいない」がある。これらは無駄とどう違うのだろうか。さらに無駄の反意語は何か、と聞かれて、すぐに答えられる人はまずいないだ

ろう。私は、文章を書く仕事をしている人に会うたびにこの質問を試みるが、みな考え込んでしまう。そしてこれらの疑問の答えは、手元にある『広辞苑』を見ても載ってはいない。実は我々は無駄という言葉をかちんと理解していないのではないだろうか。〈中略〉

まず、⑥無駄という言葉を使う例をいくつかあげてみよう。

- ① 彼はいつも何もしないで時間を無駄に過ごしている。
- ② あの人に忠告しても無駄だ。
- ③ まだ使えるのに捨ててしまって無駄にした。
- ④ こんなところには君の才能が無駄だ。
- ⑤ 提案が採用されず、彼の努力は無駄に終わった。
- ⑥ 会社でこんな仕事をやらされるのは無駄だと思う。
- ⑦ そのルートは無駄に遠回りしている。

このような文例はいくらでもあげられるが、まず気がつくことは、無駄という言葉は、

時間、資源、労力、お金、命

といった貴重で価値があると考えられるものが、「有効に使われていない」あるいは「失われてしまったとき」に使うということだ。ここで、時間や資源などには価値がある、というのが暗黙の前提になっているが、それは相対的なもので、何を重要と思うかは個人や環境などによっても異なる。しかしお金に関しては、ふつうは人々の共通認識として価値を持つものとしてよいだろう。

経済学では、価値のあるものはすべてお金に換算して考える。例えば時間だが、無駄に過ごしてしまった時間の損失を金額で評価するのに、その時間を他で働いていれば得られたはずの賃金で見積もる。これを「⑥機会費用」と呼んでいる。機会費用の考えを用いれば、時間の価値をお金に換算できる。労力も、それに対して通常は報酬が支払われるため、その賃金で価値を評価できる。資源も商品も同様にふつうは価格をつけることができる。ただし価格がつくものは何らかの希少性があるもので、空気のように希少性のないものには値段がつかない。希少性のないものを経済学では「自由財」という。つまり自由財でなければ価値あるものになり、それが失われると無駄と感じるのだ。命も同様に、命の値段を評価するのが生命保険だと考えるとわかりやすい。

ここまでをまとめると、「お金に換算できるもの、つまり時間、労力、資源などが有効に使われなかった」と気がついたときに無駄という言葉を使う。

西成活裕著『無駄学』新潮選書より

問1 下線部㉔「失敗の原因が誰にも未知の現象だったときで、この場合、プラスの意味で考えれば失敗がさらなる飛躍へつながる可能性があり、まさに、失敗は成功の母といえるだろう。」とありますが、あなたの経験や知識、社会的事象から、そのような例を挙げて600字以内で説明しなさい。

問2 下線部㉕「一見無駄なものに見えても、いつか役にたつこともある」とありますが、筆者はどのようなことを例に挙げていますか。80字以内で説明しなさい。

問3 下線部㉖「無駄という言葉」とありますが、筆者は無駄という言葉はどのようなときに使うと言っていますか。90字以内で説明しなさい。

問4 下線部㉗「機会費用」とありますが、筆者は経済学ではどのような意味だと言っていますか。100字以内で説明しなさい。